

軽アイゼンの種類



6本爪の軽アイゼン



4本爪の軽アイゼン

軽アイゼンは爪の数により、4本爪と6本爪の2種類がある。わずかに爪2本の違いだが、実際の使用感にはかなりの差がある。

4本爪は靴底の土踏まずの部分に装着するが、実際に雪の斜面を登下降すると、土踏まずの部分をつい浮かせてしまうことは多い。場所によっては、そのととらんにフルッと滑る。また、4本爪の爪は短いため、靴底に雪が付着すると爪が刺さらなくなってしまう。

6本爪アイゼンは、靴底の



4本爪をつけたところ

広い面に爪が出るうえ、爪自体のサイズも長い。一般的な雪深き多くには、十分な機能をもっている。雪に不慣れな人は、6本爪をすすめたい。

軽アイゼンの装着

雪上にアイゼンを正しくおいて、靴底についた雪をストックなどで軽くたたいて落とす

軽アイゼンはベルトで装着する。ベルトのゆるみがなく、足を締めつけすぎないように

リングなどを通してゆるみなくベルトを締め、留め具に通して、さらにしっかりと締める



軽アイゼンを使う

下り



登りと同様、土踏まずの部分に正確に荷重し、雪に両足の間に10cmぐらいの間隔を保つこと。転倒・滑落事故は下りに多い。スピードを上げすぎず、足もとを意識して下ろう。



雪深が高いと、靴底に雪がついてたまってくるので、ときどき落としたりやる。こんなときはストックが便利だ

登り



無理のない狭い歩幅で踏みだして、土踏まずの部分に正確に荷重する。爪の引っかけを防ぐために、両足の間に雪に10cmぐらいの間隔を保って足を置け。独特の足運びに十



分に慣れないと、思わぬときに滑落事故を起こしてしまう危険がある。傾斜に応じて足先を「逆ハの字」に開くのは土の斜面と同じ